

St. Luke's International University Repository

胃ろう判断 家族向けに手引書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 外記子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/10953

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



胃ろう判断 家族向けに手引書

2013.7.12 9時

お年寄りが口から食べられなくなった時、胃ろうをつけるかどうか。認知症などになり、自分で判断できなくなった高齢者に代わって家族らが判断する際の手引書ができた。聖路加看護大などのグループが、カナダの研究機関による冊子の日本版を作った。

胃に穴をあけて栄養を入れる胃ろうをつけると、食べられるほどに回復する人がある。手引書では、胃ろうをつけるか検討するワークシートを作った。病気が良くなる見込みや本人の思い、判断する人が葛藤を感じるかなどを書き出し、判断する。

聖路加看護大など作成

一方、胃ろうでは出血や感染が起きる心配もあり、トラブルの頻度のほか、つけた人がどれくらい長生きするかといったデータも示した。

さらに、胃ろうを選ばない場合、鼻から胃に通した管から栄養をとる方法や、点滴で水分をとる方法などの利点や欠点も解説している。

まとめた倉岡有美子・聖路加看護大助教は「本人の思いを押し量ることは難しい。ご家族が納得して決めるツールになれば」と話す。「胃ろうの意思決定支援サイト」(<http://iro-uishikettei.jp/index.html>)から入手できる。(辻外記子)

2013.7.12
朝日新聞 9時